

## ⑤ドーピングの現在の種類と動向

競技ダンスにおけるドーピング違反の報告は陸上競技やウエイトリフティングと比較して多くはありませんが、少なからず報告されています。

廣瀬立朗

桐蔭横浜大学スポーツ科学部  
スポーツ健康科学科 准教授

### ドーピングの現在の種類と動向

#### 1) 競技ダンスにおけるドーピング違反

競技ダンスの選手や愛好家が持つドーピングに対する考えについてインターネットで検索してみると、一般的にドーピングが競技ダンスに与える影響は少ない、すなわち筋肉増強剤や興奮剤を摂取しても競技力に効果がないと考えられているようです。実際、競技ダンスにおけるドーピング違反の報告は陸上競技やウエイトリフティングと比較して多くはありません。

しかし、Sekulic ら (2008) の研究によると、2005 年から 2008 年の間に世界レベルでのダンス競技でタンパク同化ステロイドを用いたドーピング違反が 3 件あり、その選手たちは出場停止処分を受けています。検索を進めてみると、2019 年にはウイーンで行われた WDC の Ballroom Show Dance Championship において  $\beta$ 2 作動薬を使用したドーピング違反がありました。 $\beta$ 2 作動薬は呼吸がしやすくなったり、タンパク同化ステロイドと同様に筋力増強の効果もあります。近年の様子については WADA が発表する anti doping testing figures によると 2019 年には国際大会のラテン種目においてグルココルチコイド使用の違反、国内検査ではドイツ、オランダ、デンマーク、イタリアにてドーピング違反 (内容不明) が、2021 年には国際大会で興奮剤とグルココルチコイド使用の違反が報告されています。

ダンスの競技特性を考えると、競技会は予選から決勝まで数ラウンドをこなすため、持久系能力を高めるドーピングが行われると考えていました。様々な種類のドーピングがされている中、タンパク同化ステロイドが検出されていましたが、予想と異なったのではないのでしょうか。競技レベルが上がるほどさらなる筋力や持久力が要求されるのかもしれませんが。

#### 2) ダンサーのドーピングに関する意識

先述の Sekulic らはセルビアのスタンダードとラテンの 43 人のダンサーに対して薬物使用についてアンケートを行いました。ドーピングの項目に絞ってその結果を紹介します。

女性ダンサーの 33%、男性ダンサーの 41%が自分たちのスポーツにおけるドーピングの習慣についてよくわからないと回答しました。この意見は大変残念な結果でした。1) 国際ダンススポーツ連盟 (IDSF) が特別なアンチ・ドーピング規程 (世界アンチ・ドーピング機構が策定したものと同様) を策定し、その規約に盛り込んでいること、2) ドーピング・コントロールがハイレベルの大会で定期的実施されていること、3) 過去 3 年間に 3 人のトップレベルのスポーツ・ダンサーがアナボリック・ステロイドの陽性反応を示し、出場停止処分を受けており、そのデータが IDSF のウェブページで公開されているのにもかかわらず知られていないということです。

次に女性ダンサーの 3 分の 2、男性ダンサーの 95%が、ドーピング問題についてコーチや医師を信頼していませんという回答でした。選手たちがコーチや医師の専門知識を疑い、彼らの善意を信じていないことにあるようです。これは、ドーピングを避ける判断基準が自分自身だけになってしまう危険性があります。

表 1. 男女ダンサーにおけるドーピングに関する意識との相関

|               | ドーピングが行われているという認識 | ドーピングするかもしれない |
|---------------|-------------------|---------------|
| <b>女性ダンサー</b> |                   |               |
| 年齢            | -0.08             | 0.18          |
| 信仰            | -0.02             | 0.29          |
| 教育レベル         | 0.04              | 0.08          |
| ダンス時間         | 0.4               | -0.13         |
| ステータス         | 0.7               | -0.37         |
| 競技レベル         | 0.54*             | -0.44*        |
| <b>男性ダンサー</b> |                   |               |
| 年齢            | 0.19              | -0.05         |
| 信仰            | 0.21              | -0.69*        |
| 教育レベル         | 0.03              | 0.34          |
| ダンス時間         | -0.04             | 0.05          |
| ステータス         | 0.37              | 0.21          |
| 競技レベル         | 0.18              | -0.09         |

\*:p<0.05

ダンス界にドーピングが存在するという考え方は、経験豊富で成功している女性ダンサーに多く、女性は男性に比べてドーピングに対して否定的な意見が少ないことが明らかとなりました(表 1)。この見解の主な説明は、2 つあります。第一に、有意差はなかったものの、男性ダンサーは女性ダンサーよりも信仰心が厚かったようです。宗教性は、潜在的なドーピング行為に対する強力かつ有意な防御因子であることが明らかであるため、宗教性の男女差が、おそらく最終的なドーピング行為に関する意見の違いにつながったと考えられます。日本だとどのような結果になるのでしょうか。第二に、女性は男性より有意に若かった。これは若いダンサーは (性別に関係なく) 一般的に、年上の同僚よりもドーピングに否定的

ではないことが知られています。今日のドーピングは、5年前よりもはるかによく知られるようになっています。その結果、ドーピングの習慣がそれほどひどいものだとは思わなくなるでしょう。

スポーツの勝利・成功に到達した人々は、体系的なトレーニングと才能以外の何ものでもないことをよく理解していると思われませんが、その一方で、(何度も)あまり成功しなかった仲間たちの失望や挫折は想像に難くありません。今回の結果によれば、後者の人々は、ドーピングがスポーツの成功を確実にすると確信すれば、ドーピングに頼る可能性が大きいと思われます。今後はさらにアンチ・ドーピング教育の必要性が高まります。

#### 参考文献

Damir Sekulic, Radmila Kostic and Durdica Miletic Substance Use in Dance Sport  
Medical Problems of Performing Artists Vol. 23, No. 2 (June 2008), pp. 66-71

2019Anti-Doping Testing Figures

2021Anti-Doping Testing Figures